

1 総評

(1) 30年度初めの学校の状況 【学校の現状及び成果と課題】

[学校の現状]

① 児童について

今年度は第4学年の3学級を除き、各学年2学級の計13学級。399名からスタートした。

職員の体制は常勤職員20名、内訳は、主幹教諭3名、主任教諭2名、教諭12名、養護教諭1名、都費事務職員1名である。教員の中で、初任校・6年次以下の教諭は、8名いるので、質の高い指導を実現するための人材育成は、引き続き本校の最重要課題である。

基礎学力の向上に向けて取り組みを進めているが、学習の習得状況は二極化していることは明らかである。来年度は、プログラミング教育の推進するために算数の授業を軸として、物事を組み立てる力、問題を読み取る力・自分の考えや感じたことを書いたり伝え合ったりする力の育成と共に学習習慣の定着を課題として取り組む。

② 教職員について

児童の学力向上に向け、主幹教諭・主任教諭を中心として、組織的・精力的に指導に取り組んできた。管理職や教科専門員による授業観察指導・校内研修・小中連携での実践研研究・学校公開の授業診断を通して、さらなる授業改善をめざす。

③ 保護者について

各担任を通した学校・家庭の連携、PTA行事や土曜授業の公開・放課後子ども教室等の取組をとおしての教育活動・PTA活動への支援・協力体制ができています。さらに、連携を深化させていくことを課題と考える。

[前年度の成果と課題]

① 学力向上に向けて、学力向上委員会を中心として組織的に取り組み、方策の推進を行うことができた。区学力調査の分析を基に各学年が児童の実態をとらえ、週3回のパワーアップタイムや放課後の補充教室などにおいて、基礎基本の定着を図ることにつなげた。また、校内研究授業をとおして足立スタンダードの理解を図り、教員の授業力向上を行った。家庭学習と読書の習慣化の工夫を継続し、個々の児童の学習の習得に向けた学力分析の在り方について研修を重ねながら向上に取り組んでいく。

② 児童代表委員、開かれた学校づくり協議会、PTAと連携し、学校全体であいさつの励行を行った。オリンピックパラリンピック教育を外部人材による授業を取り入れ、体験活動の充実と心の育成に取り組んだ。学習規律や生活規律では、年度当初に教職員が共通理解をもち連携し、凡事徹底をとおした子供の育成の意識化を図っていく。一人一人の教職員が子供たちの心的面や環境面の整備に学校全体でよく目を向け、連携した指導にあたり、自他を大切にすることを実感させるような学校内外の活動も重視していく。

③ 小中連携の取組は達成できているが、教員間の意識の違いはあり、中学校との連携は強化する必要がある。学力向上に向け、相互の授業研究会に全員が参加し、資質の向上につなげられた。また、生活指導面の接続に向けた課題の共有化もできた。年間を通して同じ教科部会で研究を行うことで、深いところまで話し合うことができ連携は強化された。教員の相互授業と、学校と家庭が連携して児童生徒の家庭学習習慣の定着化に取り組んでいく連携が必要である。

(2) 30年度の重点目標とそれへ向けた取組みの概要

重点的な取組事項－1【基礎学力の確実な定着】

○魅力ある授業の実現

- ・研究授業7回以上（小中連携3回、校内研3回、区小研2回）

○研究授業実践が予定を上回る7回の研究授業が実施できたので、教員の授業改善への意識を高めた。

《補習指導の改善・充実》

○サマースクールの15回と全体で学習できる場を15日間設定して実施した。

○チャレンジ教室の学習内容をプリントと担任による指導との両面から指導することができた。

○これまでの補習指導を低位の児童のみならず、対象範囲に柔軟性をもたせて取り組むことができた。

▽チャレンジ教室は木曜日の週1回を設定しているが、学校行事以外の都合で出来ないことがあった。

《新たな教科等への対応》

○校内研究会で、「道徳科」の研究授業について講師を招いて計3回行った。

○外国語活動（中・高学年）の授業観察を全学級実施した。

○東京ベーシックドリルを基礎学力定着に活用できた。個別指導や学力定着により一層活用する。

▽外国語活動の授業内容に課題が見られるので、英語指導アドバイザーとの連携を密にしていく。

重点的な取組事項－2【体力向上】

《投力の向上》

○平均値を5%上げる

◇投力向上の場を日常的に設定する。

◇5・6年参加の校内投げ方教室を開催して、フォームを安定させる。

《持久力の向上》

○積極的に長短縄跳び・持久走に取り組む児童70%

◇長短縄跳びタイムの期間延長

◇持久走に取り組む期間の延長

《跳躍力の向上》

○「立ち幅跳び」で区平均以上が80%以上

○「反復横跳び」で区平均以上が80%以上

◇体育授業の学習過程の工夫

◇縄跳び週間での短縄重点化継続

重点的な取組事項－3【健全育成の推進】

○教育目標の徹底と浸透

- ・人格の完成を目指した全校朝会での講話（年10回以上）
- ・学校便りや全体保護者会で取上げ（年5回以上）

○不登校・いじめの解消

- ・校内支援委員会の定期開催
- ・「学校生活支援会議」の開催（SC参加、月1回、臨時）

○給食残菜の解消

- ・モグモグタイム（給食前半は食べることに集中する）ともりもりウィークの実施（年4回）
- ・青空給食の定着（年2回、春・秋）

○学校行事の厳選

- ・文化的行事として、学芸会・音楽会・展覧会を各年度に文化的行事として一行事ずつ開催
- ・全校遠足などの優先順位の低い行事の削減

重点的な取組事項－４【学校組織の運営改善】

○職層に基づく職務行動の定着

- ・主幹教諭や必置主任が分掌の係を統括し、学校経営方針の下、自立した組織運営を行う。
- ・経営会議では、原則として係長が提案する。
- ・重要案件の管理職との事前相談の促進

○責任者の明確化

- ・一役二人以上の体制を作り校務分掌の引き継ぎと検討を確実に実施する。
- ・職層に基づく組織編制と、プロジェクトチーム・特別委員会を各学年１名出して編成する。

(3) 30年度の成果と31年度へ向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１【基礎学力の確実な定着】

■担任と副担任の連携による補習授業とMIMアセスメントの強化トレーニングを実施できた。

《魅力ある授業の実現》

○研究授業予定を上回る８回実施し、教員の授業改善に対する識を高めた。

《補習指導の改善・充実》

○サマースクールを個人補習１５回と各自の自主的補習を１５回実施した。

○MIMアセスメントの強化トレーニングの実施週１回

○東京ベーシックドリルを基礎学力定着に活用できた。個別指導や学力定着により一層活用する。

△チャレンジ教室回数の確保はもとより、サポーターや教材の質を向上させることに取り組んだ。

《新たな教科等への対応》

○校内研と区小研で、「道徳科」の研究授業（計３回）を行った。

○外国語活動（中・高学年）の授業観察を全学級実施した。

△外国語活動の授業では英語アドバイザーに頼り切りとなり、担任主導の授業ができない。

重点的な取組事項－２【体力向上】

■全国体力調査９６項目の内、区平均以上が６７．７％で、昨年比－２Ｐとなった。

《投げる力の向上》

○投力向上の場を日常的に設定する。

○５・６年参加の校内投げ方教室を開催して、フォームを安定させる。

《持久力の向上》

○長短縄跳びタイムの期間延長と持久走に取り組む期間の延長

△持久走に向けた取り組みが不明確なため、児童の意欲喚起と体力向上にはつながらない。

重点的な取組事項－３【健全育成の推進】

■全校朝会での校長講話から各クラスが発達段階に応じた指導と評価を共通実践できた。

《進んで挨拶のできる児童の育成》

○授業アンケートの児童の挨拶の項目が達成７０％以上

○月１回の代表委員会による毎朝の挨拶運動の実施。

◇定期的な週目標や講話、挨拶週間による挨拶の意識喚起

重点的な取組事項－４【学校組織の運営改善】

■「会議の厳選」が一層進み、職員連絡会を１３回以内に抑えた。

《職層に基づく職務行動の定着》

○４係長が進捗状況を把握し、各担当者に責任をもたせる体制を整備できた。

○係に分掌を集約することで、会議時間の削減に繋がり、補習指導や教材準備の時間を増やせた。
△新たな教育課題に対応出来ないことがあるので、特別委員会やプロジェクトチームが必要である。
《責任者の明確化》
○係長をリーダーに、係内の担当者を明確・明示した。
△係長が係の統括者であるという自覚の足りない職員も見られる。

【解決の方向性】

- ⇒ 「分かる授業」を目指した授業改善を一層進める。
- ⇒ 実施内容の改善を図り、質の高い「補充学習」を進める。
- ⇒ 道徳科や外国語活動をはじめ、新学習指導要領への対応を進める。
- ⇒ 運動に偏りが出ないように、学習指導要領に基づいた体育科学習を、意図的・計画的に進める。
- ⇒ 体力向上に関わる活動に教員を率先して参加させ、児童の参加意欲を高める。
- ⇒ 今後も、泳力や持久力、跳躍力を核とした体力作りを進める。
- ⇒ 6学年で噴出する問題行動を抑制・解決するために、1～5学年での指導改善を図る。
- ⇒ 学校組織の運営改善を「働き方改革」「教職のやりがい」と関連付けて進める。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

学力定着に向けて学年によって課題は残るものの、順調に改善しています。引き続き、学力定着・向上を最大の目標として、学校改革を進めます。また、体力向上は、第一に、学習指導要領に則った「体育科学習の意図的・計画的な実施の実現」を図り、その上で、投力や持久力、跳躍力の向上を核に「運動好きの人作り・区民寿命の向上」を目指します。

新しい時代を迎え、栗島小学校は、教育目標を『かしこく やさしく しなやかな栗島の子』として、学校経営で目指す児童像を『**く**じけない心 **り**りしい姿 **し**んけんな態度 **ま**なびあう仲間』と児童・保護者・卒業生・地域の皆様方に伝わりやすく、わかりやすいものにして、子供たちの姿で成果を語り、“輝く 明日へ 栗島小”として進化します。

今後とも新しい時代とともに進化していく栗島小学校にご理解とご協力をお願いいたします。

2 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1【基礎学力の確実な定着】

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
区学力調査での通過率向上 (学力向上)	区学力調査 通過率80%	78.3%となり、基準の 達成はできなかった。	目標は突破できなかったが、引き続き、「魅力ある授業」の実現と、効率的な個別補習を進める。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
魅力ある授業の実現	①研究授業を 7回以上	◇小中連携で3回 ◇校内研で3回 ◇区小研で1回以上	①実施できた。 ②区小研での授業研究は3回の実施ができた。	授業改善は教員の本務であり、今後とも魅力ある授業の実現を目指す。	○
補習指導の改善・充実	① 担任補習60回以上 ②チャレンジ教室40回以上と質的向上 ③サマースクール15日間と各自の自主的補習実施 ④MIMアセスメントの強化トレーニングの実施	◇補習実績の記録 ◇チャレンジ教室の実施と質的向上 ◇サマースクールの設定の改善 ◇補習指導を低位の児童のみならず、対象範囲の柔軟性 ◇MIMアセスメントの強化トレーニングの実施	◇担任補習の実績を週案に記録した。 ◇チャレンジ教室の学習内容を担任と副担任による指導との両面から指導することができた。 ◇サマースクールの15回と全体で学習できる場を15日間設定して実施した。 ◇これまでの補習の指導を低位の児童のみならず、対象範囲に柔軟性をもたせて取り組むことができた。	個の状況を確実に把握・分析して、効率的な補習指導を実現していく。	○
新たな教科等への対応	①道徳科研究授業3回 ②英語、外国語の全学級授業観察(3～6年)	◇道徳科を研究教科とした校内研での取組 ◇3学期に教科を指定して実施	①研究授業3回実施、通知表所見の先行実施	道徳科は道徳授業地区公開講座と小中連携でも授業研究会を開催した。	○

重点的な取組事項－２【体力向上】

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
体力調査の数値向上	全項目の 80%以上が 区以上	54.2% ⇒ 69.8%	運動好きの児童が増えつつあるが、体力向上は引続く課題である。	△	
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
投げる力の向上	○体力調査の結果を平均値5%上げる	◇投力向上の場を日常的に設定する。	○区の平均値を80%以上の児童がクリアする	◇5・6年参加の校内投げ方教室を開催して、フォームを安定させる。	○
持久力の向上	○長短縄跳び・持久走に取り組む児童80%	◇長短縄跳びタイムの期間延長 ◇持久走に取り組む期間の延長	△縄跳びカードの改ざんと持久走の取組カードの改善ができた。	積極的に長短縄跳び・持久走に取り組む児童70%	△
跳躍力の向上	①「反復横跳び」と ②「立ち幅跳び」で80%以上が区平均以上	◇授業での取扱 ◇短縄週間の期間延長	授業改善の視点として定着せず、行間運動のみでの活動になった。	長縄中心になっている。短縄で児童の運動量を高めたい。	△

重点的な取組事項－３【健全育成の推進】

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
意欲的な学校生活の実現	区意識調査「学校が楽しいか」の肯定的な回答率が区平均以上	92.2% (+1.6P)	「学校が楽しい」「授業が楽しい」が区平均以上となり喜ばしい。	○	
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校・いじめの解消	①年末3件以下、年度末解消	◇「学校生活支援会議」の開催で、いじめや不登校、特別支援を取扱う。	①完全不登校0名、年30日以上登校渋りが1名、いじめの未解決0件となった。	特別支援関係は、今後も適正就学を薦めていく。	○
大切に作る食生活の実現	○年残菜率0.5%以下	◇モグモグタイム(給食前半は食べることに集中する)ともりもりウィークの実施(年4回) ・青空給食の定着(年2回、春・秋)	◇「食」への関心を高め、「食」の自己管理能力の育成を図ると共に食に対する感謝の心を育てる。	職員のチームワーク・保護者の理解が働いて達成できた	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
進んで挨拶のできる児童の育成	・授業アンケートの児童の挨拶の項目が達成70%以上	◇月1回の代表委員会による毎朝の挨拶運動の実施。	◇週目標や講話、挨拶週間による挨拶の取組ができた。	◇継続した週目標や講話、挨拶週間による挨拶の意識喚起ができた。	○

重点的な取組事項－4【学校組織の運営改善】

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
効率的な組織運営の定着	職員連絡会の厳選(年13回以内)	必要最小限の実施とした。	時間意識を向上し、「働き方改革」「やりがい改革(多忙感・負担感の解消)」へ繋げていく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
職層に基づく職務行動の定着	①主観教諭(教務、生活指導、学力定着、庶務)が、学校経営方針の下、自立した組織運営ができる。	◇主幹教諭や必置主任が担当係を統括するよう、経営会議では原則として係長から提案させる。 ◇重要案件の管理職との事前相談の促進	①係によって違いが見られ、数値では表しにくいがおおむね係運営が円滑に進むようになった。	職層に基づく職務行動・執務意識を徹底していく。	○
責任者の明確化	①担当が明確で、自らの職務を自覚している。	◇一役二人の校務分掌を原則設定 ◇職層に基づく組織編制で、4係会に校務分掌を振り分け	①各係で主体的に校務の分掌が図られた。	今後も、係内で決めた分掌は、明確・明記し、通年で前向きに責任を果たすよう、係長を通して徹底させる。	○

3 学校活動全般について

学校全体としては、知・徳・体の育む力とバランスは向上している。しかし、学年・学級によって差異や課題の違いが見られる。職員はおおむねチームワークを大切にし、児童の育成に当たっているが、指導力に差が見られるのも事実である。個々の教員の指導力を高めることはもちろん、組織を生かし、同じベクトルでチームワーク(共通実践)を重視した指導の徹底を図っていく。

校長のリーダーシップの下、力を合わせて職務を果たす教職員を育成し、大切な子供を預けている保護者の信頼・期待に応える。

今後も、児童の「自己肯定感」や「自校肯定感」をさらに伸ばし、教育目標『かしこく やさしく しなやかな栗島の子』の下、新たな学校経営で目指す児童像を『**㊦**じけない心 **㊷**りしい姿 **㊸**んげんな態度 **㊹**なびあう仲間』と児童・保護者・卒業生・地域の皆様方に伝わりやすく、わかりやすいものにして、子供たちの姿で成果を語り、“輝く 明日へ 栗島小”として地域に存在し、卒業生が立派な社会人として活躍するために、質の高い「知・徳・体」の実現を強力に追求・実践していく。